

災害統計グローバルセンター（GCDS）において専門家会合を開催しました （2019/11/13-14）

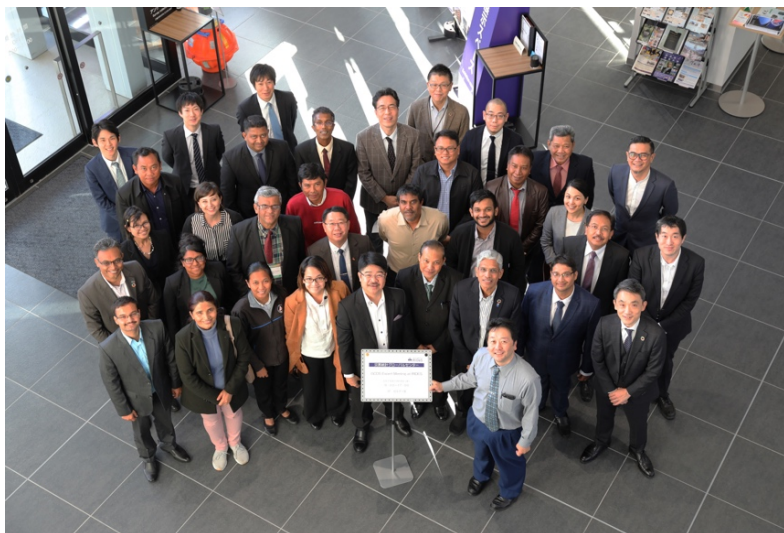
テーマ：災害統計の整備、国際連携

場所：東北大学災害科学国際研究所 1階 会議・セミナー室（宮城県仙台市）

2019年11月13日（水）、14日（木）の2日間に渡り、災害統計グローバルセンター（GCDS）において専門家会合（Expert Meeting）を開催しました。会合には、東北大学災害科学国際研究所、国連開発計画（UNDP）、富士通株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社の関係者、及びGCDSパイロット国の防災関係者（シニア級を含む）が参加しました（参加者数は40名弱）。当研究所からは、小野裕一 教授、佐々木大輔 助教、田中秀実 研究員（いずれも情報管理・社会連携部門）、奥村誠 教授（人間・社会対応研究部門）、江川新一 教授（災害医学研究部門）が出席しました。

今回の会合では、GCDSにおけるこれまでの研究成果等に関する発表に加え、パイロット国における災害データベースの整備状況等に係る認識の共有や、GCDSにおける今後の活動等に係る積極的な意見交換が行われました。また、GCDSメンバーとパイロット国関係者との間で個別面談（Bilateral Meeting）も実施され、今後の活動に資する有益な情報を得ることができました。

GCDSでは、引き続きUNDPや、富士通株式会社をはじめとする民間企業との連携を密に取り、世界の災害統計の発展と防災力向上に向けて、学際的・分野横断的に研究・活動を進めていきます。



集合写真